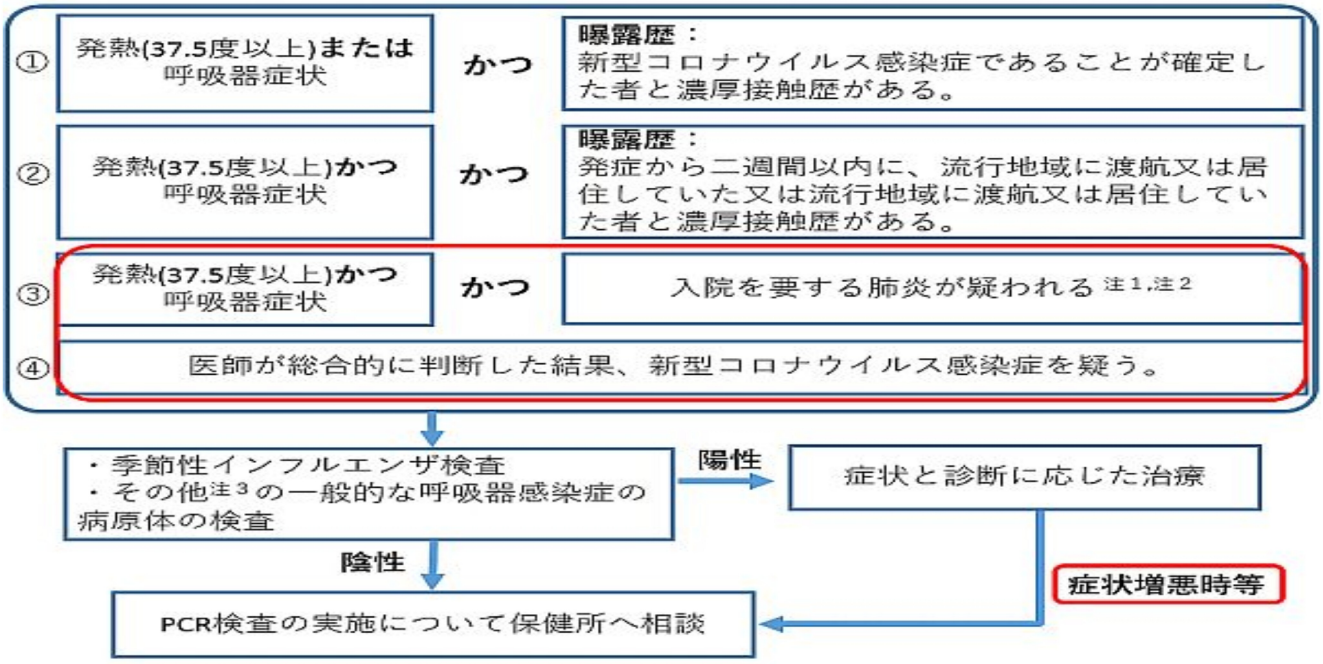
百合が丘クリニック通信vo618
名張市百合ヶ丘東１－１４　℡（０５９５）６４－２０００　２０２０年3月5日作成

◎西洋医学的に治療法が無い新型コロナウィルス肺炎こそ漢方の出番だ

皆さんも新型コロナウィルスの肺炎が大変なことになってきました。

年初から**中国の武漢市**から発生し、それがあっという間に中国全土に広がったかと思えば、日本も徐々に今、広がってきています。**気が付けば日本はシンガポールや米国や中国にもに新型コロナ渡航注意国と認定されています。**もう日本は世界有数の遅れた国になっています。これまで頑張ってきた祖先に申し訳無いような国になっています。

さらに日本では西洋医学的にこの病気に対して有効な治療法が無いのでもし風邪症状でもこの新型コロナの恐れがあるので医療機関に来るなとあちらこちらで言われています。これはまさに耳を疑います。**あらゆる病気は予防と早期診断・早期治療が大事なことは皆さん御存知の通りです。**これは通常のインフルエンザ

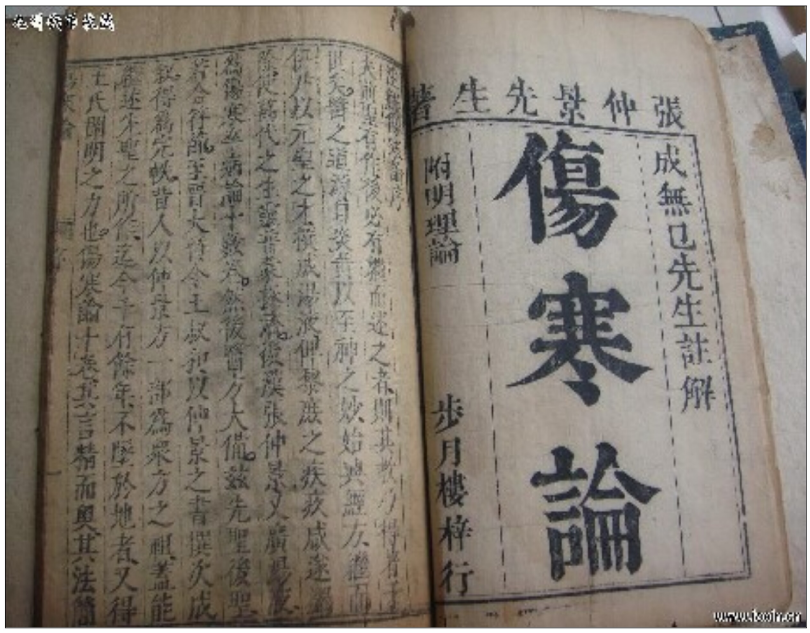


ですら重症化する可能性があります。**また新型ウイルスの検査へのハードルは非常に高く肺炎になって入院するまでつまり重症になるまで検査できません。しかし新型コロナウィルス重症化すれば治癒率が低くなります。**

「医学雑誌ランセットには、武漢市金銀潭医院に入院していた**重度の肺炎患者52人のうち32人（61.5%）が死亡したという論文が発表されています。SARS（重症急性呼吸器症候群）やMERS（中東呼吸器症候群）の重症患者の死亡率よりも高くなっていたそうです。**発症の初期段階では多くの場

合、発熱や衰弱などの軽度の症状しかありませんが、2週目までに患者の約15～20%が呼吸不全などを発症し、急速に重症化していきます。
その中で35人の患者（67%）が急性呼吸窮迫症候群（ARDS）を起こし、急性腎障害15例（29%）、心不全12例（23%）、肝機能不全15例（29%）など多臓器不全と呼ばれる状態に陥っていました。」さらに「中国の国家衛生健康委員会は3月4日、新型コロナウイルスの感染者では肺のほか脾臓（ひぞう）などのリンパ系器官、心臓や肝臓、腎臓、脳組織などにも異常がみられたとする病理診断の結果を公表した。」単なる肺炎ではありません。重症化する前に発見して治療することが最大のカギであることが分かります。

また全ての症例で見ても死亡率も高いです。
「世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は3月3日、新型コロナウイルス（COVID―19）感染による致死率がこれまでのところ約3．4％となっていることを明らかにした。」
インフルエンザは1万人に数人ぐらいしか亡くなりません。比べ物にならないぐらい高いです。
　じゃあ何故、軽症のうちは医療機関に来るなと政府や専門家が言うのでしょうか？それは既に市中感染が増えてしまってあちらこちらに新型コロナの患者さんがいるからです。それを皆さんを犠牲にしても今暫くだけ増やしたく無いということです。これはある意味これは正しいですが一方で検査もできるだけしなようにしているから診断すらついていない新型コロナの患者さんが増えているからその人たちから感染するので結局これは最終的には意味が無いことになる可能性が高いです。
果たしてこれで危ないか危なくないかをもう一度よく考えて欲しいと思います。
じゃあどうするのか？と言うことですが漢方治療は1800年前にまさに今みたいな病気を治すために生まれました。それが傷寒論です。その序文です。
「余宗族素多.向餘二百。建安紀年以来.猶未十稔.其死亡者.三分有二.傷寒十居其七。感往昔之淪喪.傷横夭之莫救.乃勤求古訓.博采衆方.撰用『素問』.『九巻』.『八十一難』.『陰陽大論』.『胎臚薬録』.并平脈辨証.為『傷寒雑病論』.合十六巻.」（余の一族は、元々二百に余るほどであった。　しかし、建安紀年から十年も経たないうちに、三分の二が死んでしまった。　死んだ者の内、十中に八は傷寒の病であった。往昔の淪喪（りんそう）に感じ、横夭(おうよう)



の救い莫（な）きを傷み、乃（すなわ）ち勤めて古訓に求め、博く衆方を采（と）り、『素問』、『九巻』、『八十一難』、『陰陽大論』、『胎臚薬録』、并びに平脈辨証を撰用し、『傷寒雑病論』、合せて十六巻を為す。）と記されています。感染症で亡くなった２／３の人みたいに後世の人はなって欲しくないからこの本が生まれました。
つまりまさに今のような状態と闘うために記されたのが傷寒論です。その後中国では傷寒だけでは無く温病という病気にも闘うように温病学も発展しています。傷寒は寒い季節に起こる病つまり新型インフルエンザのような疾患を治すために作られました。傷寒論にも太陽病つまり病の初期に治すのが良いと記されています。寒気がして直ぐが一番身体にウイルスが入って身体で繁殖しようとしている時でその時に身体から追い出すのが一番簡単だとしています。こじれないうちに肺炎のように臓器に到らないうちに治すのが一番良いと言うことになります。だから肺炎になるまで自宅で様子を見ようという考えは昔の人から見ても驚くようなアドバイスになります。更に漢方では未病のうちに治すのがもっと良いとされています。これは身体の弱いところを補いウイルスが侵入しないようにすることです。インフルエンザでもどんなに流行っても学校でも職場でも全員が感染しないです。感染するかしないかは体力の違いや免疫力の違いです。
　最近、友人からテレビ【林修の今でしょ！講座】（2月18日）で山芋や長芋が免疫に良いから新型コロナの予防になるとやっていたそうでスーパーで品薄になっています。もちろん山芋長芋も漢方では滋養強壮薬になっているので良いと思いますがこれはちゃんとした漢方の考え方から見れば作用が弱すぎます。当院に受診されている患者さんが異口同音に言われるのは当院に受診するようになってからインフルエンザにも長年かからなくなったと言われる人が殆どです。新型コロナでも一緒だと思っています。
　更に最初は中国特に武漢市では死亡率が高かったですがだんだん下がってきています。これは以前申し上げたように習近平が中医学大学に指示して肺炎になった場合の治療法を考えさせた結果だと思います。**浙江省中医院呼吸科では既に肺炎になったものに漢方薬を使用して６７％改善したと発表しています。**

　何もしないで治癒率を上げた訳では無いということがわかります。怯えるだけでは何の発展も無いと思います。私は日本に留学していた中国人の漢方医と定期的に連絡を取っていますが最近は彼等も余裕が出てきて日本の後手後手の惨状を

憂いています。皆さん勘違いされていますが加藤厚労大臣は2月15日の会見ではっきりと日経新聞によれば「厚労省は早期発見・治療に重点を置いた国内対策の強化を急ぐ。」とはっきりと言われています。間違った情報に惑わされないでちゃんと裏を取りましょう。皆さんもできるだけ漢方で予防をしてください。かかったと思えば肺炎まで待たずに治療してください。本当に他人に感染させたくないなら肺炎になっても自宅に留まって頑張ってください。当院の患者さんには決してお薦めしませんが。